

まんのう町内遺跡発掘調査報告書 第9集

中寺廢寺跡

平成 23 年 度



2012年 3 月

まんのう町教育委員会



中寺廃寺跡 遠景



柞野・江畑道導入部（A地区第12テラス）から見た満濃池

〔題 字〕 金澤正親

〔表紙写真〕 中寺廃寺跡のヤマザクラ

序 文

まんのう町教育委員会では、平成16年から古代の山林寺院跡である「中寺廃寺跡」の発掘調査を行っております。

平成20年3月28日に、「中寺廃寺跡」は、古代山林寺院として全国的に貴重な遺跡であるとして、国指定史跡となりました。

平成20年度までに、A地区では菜園場跡・仏堂跡・塔跡・大炊屋跡、B地区では仏堂もしくは割拝殿であった礎石建物跡・僧房跡、C地区では石組遺構を確認しています。A地区は仏堂と塔が計画的に配置された中枢伽藍が存在する中心的な地区、B地区は中寺において、最も早い時期より大川山信仰に根差す活動が始まった地区、C地区は平安時代における民間信仰の痕跡が残る地区と考えられます。

平成22年度は、A地区第11テラス、A-B地区間連絡道、B地区第3テラス西側斜面について、遺構の確認を目的とした試掘調査を実施しました。

A地区では、これまで確認されたもの以外に関連する遺構を確認するために広範囲に踏査し、平坦地を確認してトレンチ調査を行いました。関連する遺構は確認できませんでした。遺物は石鏃、サヌカイトの剥片が出土しました。

また、大川神社やC地区との連絡道を確認するために、A地区・B地区間の、連絡道のトレンチ調査をしましたが、明確な道の遺構は確認できませんでした。遺物は須恵器片・土師器片が出土しました。

B地区では、斜面部にトレンチを設定し、その状況を確認しましたが、明確な遺構は確認できませんでした。遺物は須恵器・土師器が出土しました。

平成23年度は、本年度から開始された史跡内の保存整備事業により、掘削を伴い現状が変更される箇所について事前に調査を実施しましたが、明確な遺構は確認できませんでした。

このたび多くの方々のご高配とご尽力により、「中寺廃寺跡」の調査報告書第9集目を発刊する運びとなりました。本報告書が、古代山林寺院仏教の研究資料として広く活用されますとともに、文化財に対する理解と関心が一層深められることになれば幸いです。

最後になりましたが、本発掘調査に格別のご指導とご協力をいただいております関係の皆様方に心から深く感謝申し上げますとともに、今後ともよろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。序文に代えさせていただきます。

平成24年3月

まんのう町教育委員会

教育長 北 山 正 道

例 言

1. 本報告書は、まんのう町教育委員会が、文化庁の文化財補助金を受けて平成23年度国庫補助事業として実施した、香川県仲多度郡まんのう町造田3469-2他に所在する中寺廃寺跡の報告を収録した。
2. 発掘調査及び報告書の作成は、まんのう町教育委員会が実施した。
3. 発掘調査及び報告書の作成にあたって、以下の方々のご教示、また関係機関の協力を得た。記して謝意を表したい。(敬称略、五十音順)
片桐孝浩、鈴木信男、森下英治、香川県教育委員会生涯学習・文化財課、
香川県埋蔵文化財センター、まんのう町文化財保護協会
4. 本報告書で用いる方位の北は、旧国土座標第Ⅳ系の北であり、標高は東京湾平均海水位(T.P.)を基準としている。
5. 挿図の一部に国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したまんのう町全図(1:25,000、承認番号平17四複第81号)及び、国土地理院地形図「内田」(1/25,000)を使用した。

目 次

1. 立地と環境	1
2. 調査の経緯と経過	4
3. 周知と活用	6
4. 調査の成果	7
(1) 遺構	7
①遊歩道（なか道）敷設箇所トレンチ	7
②遊歩道（きた坂）階段敷設箇所	8
③仏ゾーン説明板設置箇所（A地区第3テラス）	8
④柞野・江畑道導入部（A地区第12テラス）案内板設置箇所	8
⑤道標設置箇所	15
(2) まとめ	16

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図	2
第2図 平坦地分布図	3
第3図 本年度調査箇所配置図	9
第4図 遊歩道（なか道）敷設箇所トレンチ 土層断面図 トレンチ1～3	11
第5図 遊歩道（なか道）敷設箇所トレンチ 土層断面図 トレンチ4～6	12
第6図 遊歩道（なか道）敷設箇所トレンチ 土層断面図 トレンチ7～9	13
第7図 遊歩道（きた坂）階段敷設箇所 土層断面図	14
第8図 柞野・江畑道導入部（A地区第12テラス）案内板設置箇所 土層断面図	15

写真図版目次

- 図版1 中寺廃寺跡 遠景
柞野・江畑道導入部（A地区第12テラス）から見た満濃池
- 図版2 柞野・江畑道導入部（A地区第12テラス）からの遠景 北西方面
柞野・江畑道導入部（A地区第12テラス）からの遠景 南東方面
- 図版3 遊歩道（なか道）敷設箇所 トレンチ1 掘削前状況 北から
遊歩道（きた坂）階段敷設箇所 掘削前状況 西から
仏ゾーン（A地区）説明板設置箇所 掘削前状況 東から
柞野・江畑道導入部（A地区第12テラス）案内板設置箇所 掘削前状況 北から
- 図版4 遊歩道（なか道）敷設箇所 トレンチ1 西壁土層断面 北東から
遊歩道（なか道）敷設箇所 トレンチ2 西壁土層断面 北東から
遊歩道（なか道）敷設箇所 トレンチ3 西壁土層断面 南東から
遊歩道（なか道）敷設箇所 トレンチ4 西壁土層断面 南東から
- 図版5 遊歩道（なか道）敷設箇所 トレンチ5 西壁土層断面 南東から
遊歩道（なか道）敷設箇所 トレンチ6 南壁土層断面 北東から
遊歩道（なか道）敷設箇所 トレンチ7 南西壁土層断面 北から
遊歩道（なか道）敷設箇所 トレンチ8 南西壁土層断面 東から
- 図版6 遊歩道（なか道）敷設箇所 トレンチ9 西壁土層断面 北東から
遊歩道（きた坂）階段敷設箇所 北壁土層断面 南東から 1/3
遊歩道（きた坂）階段敷設箇所 北壁土層断面 南東から 2/3
遊歩道（きた坂）階段敷設箇所 北壁土層断面 南東から 3/3
- 図版7 仏ゾーン説明板設置箇所（A地区第3テラス）完掘状況 南から
仏ゾーン説明板設置箇所（A地区第3テラス）完掘状況 北から
柞野・江畑道導入部案内板設置箇所（A地区第12テラス）完掘状況 東から
柞野・江畑道導入部案内板設置箇所（A地区第12テラス）完掘状況 北から
柞野・江畑道導入部案内板設置箇所（A地区第12テラス）西壁土層断面 東から
柞野・江畑道導入部案内板設置箇所（A地区第12テラス）南壁土層断面 北から

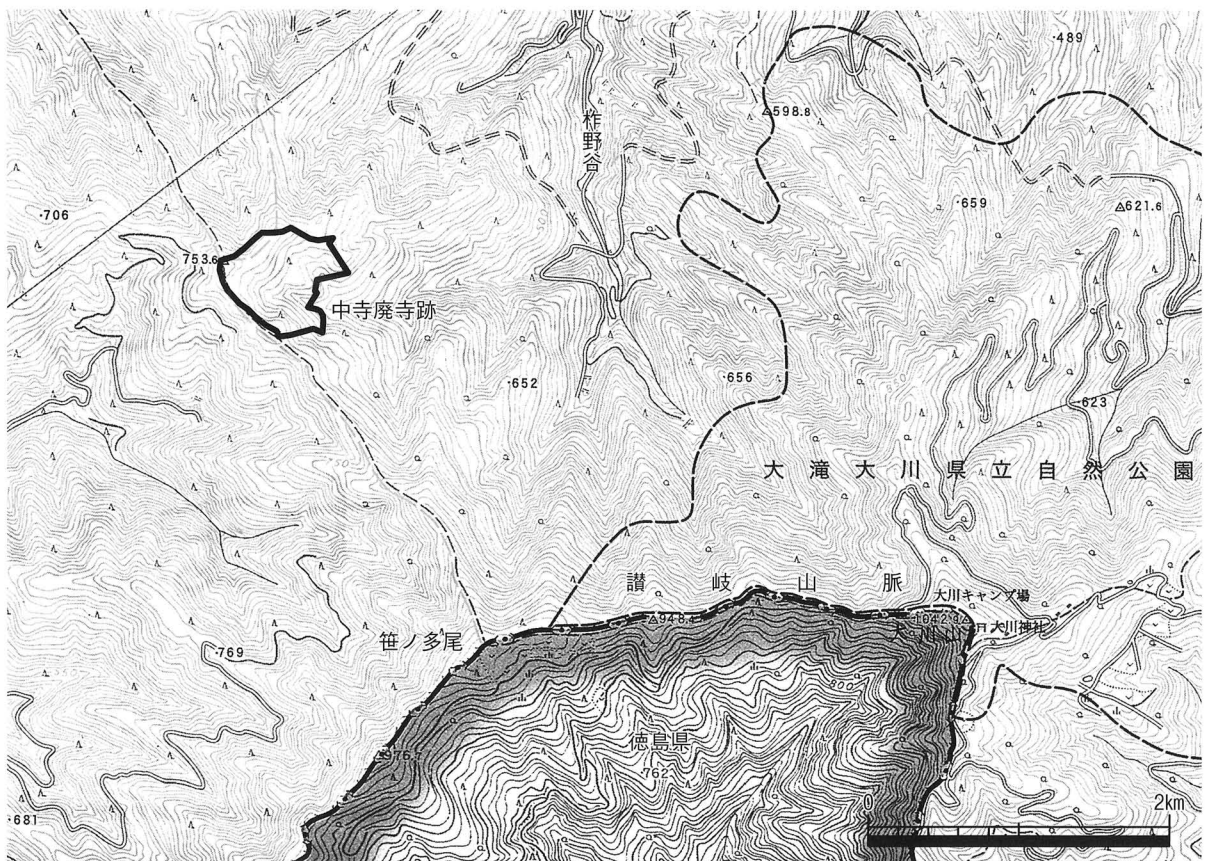
1. 立地と環境

史跡中寺廃寺跡が所在するまんのう町は、平成18年3月20日に香川県仲多度郡南部の3町（琴南町、満濃町、仲南町）が合併して誕生した町である。香川県中部（中讃）に位置し、東は綾川町・高松市、西は三豊市、北は丸亀市・善通寺市・琴平町、南は徳島県美馬市・三好市・東みよし町に接している。町の面積は194.33km²、人口は約2万人である。町の南部及び南西部には、標高1,000mを超える竜王山（1059.9m）、大川山（1042.9m）を主峰とする讃岐山脈が連なり、その麓を県下で唯一の一級河川土器川が北流している。土器川を溯り、讃岐山脈の分水嶺となる三頭峠まで登り詰めると、切り立つように急峻な眼下に、東に向けて滔々と流れる吉野川を望むことができる。対岸には剣山を擁する四国山地の山並が続く。

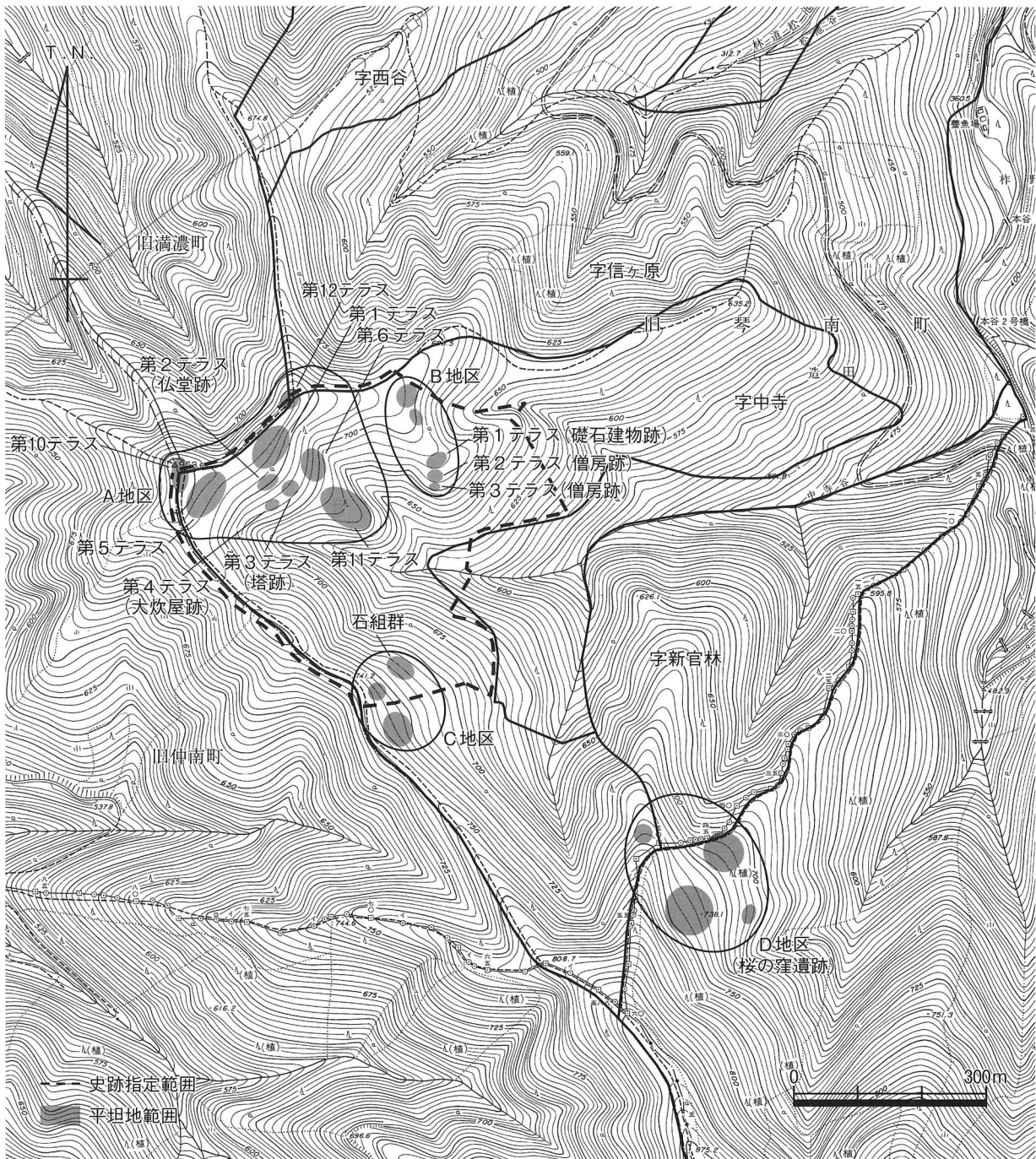
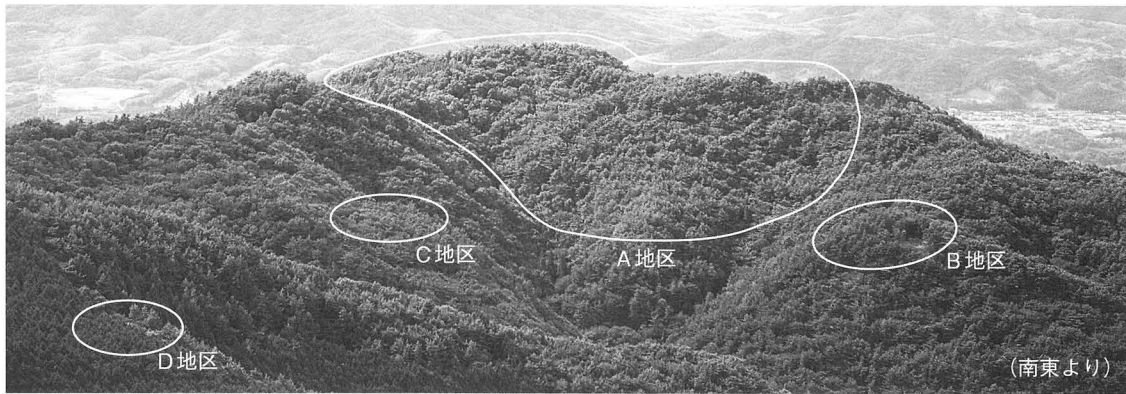
まんのう町には、古くから讃岐・阿波間を結ぶ峠越えの道が数多く通っている。こういった峠越えの道は先史時代より存在していたと考えられ、これらの道が古代には官道として、中世には修験道者の道や軍用道として、近世には金毘羅街道として整えられ、讃岐山脈を挟む南北地域間の交流に利用されてきた。中でも三頭峠は、金毘羅五街道の内的一本、阿波街道であり近代まで通行量の多い道であった。現在では、猪ノ鼻トンネル・三頭トンネルが香川・徳島間の主要な往還となっている。

史跡中寺廃寺跡は、香川県と徳島県を分かち讃岐山脈第2の主峰、大川山の香川側山間部に位置する。大川山頂より西北西約2.5km、標高約700mの地点に、小尾根から東南東へ開けた谷があり、この谷を囲む東西400m、南北500mの範囲に分布するテラスが史跡中寺廃寺跡である。テラス群は分布状況から、標高が最も高く谷部に位置するA地区、谷の北側に位置するB地区、B地区と谷を挟んで向かい合うC地区の3地区に大きく分けられる。史跡指定面積は187,713.16m²である。これら3地区は、現在では樹木が生い茂り見通しが悪いが、谷を隔ててお互いを見通すことが可能である。尾根上のテラスからは、ほぼ香川県全域を見渡すことができる。山腹のテラスからは、尾根に遮られるため遠望することはできないが、B地区南東方向の視界は大きく開けており、古くから信仰されてきた大川山を望むことができる。

現在、中寺廃寺跡へは大川山麓の集落である中通、江畑、柞野から至る。中通からは途中、大川神社参拝道を通る。大川山頂や途中の讃岐山脈尾根筋からは、北に日本最大の灌漑用ため池である満濃池をはじめとするため池群が潤す平野部を、南に四国山地の雄大な広がりを一望できる。江畑、柞野から至る道は、古来より大川神社参拝道、金毘羅参拝道として、また地元住民の生活道として炭焼き、林業に利用されてきた。これらの道は麓では前述の街道へと至り、奥では峠越の道へと至る。



第1図 遺跡位置図



第2図 平坦地分布図

2. 調査の経緯と経過

調査地付近に「中寺」「信が原」「鐘が窪」「松地谷」といった寺院に関する地名が存在すること、寛政11（1799）年に記された『讃岐廻遊記』中に「中寺」の表記があること、近隣集落には大川七坊と呼ばれる寺院が山中に存在したという伝承が残っていることから、近年、寺院の存在が示唆されてきた。しかし、寺院の詳細が記された文献は未確認であり、永らく幻の寺院であった。

昭和56年度

中寺廃寺跡付近の分布調査を実施し、現在のA地区付近において数箇所の平坦地を発見した。

昭和59年度

ボーリング棒による調査を実施し、A地区第2テラスで礎石を確認した。またA地区第3テラスにおいて試掘調査を実施し、塔跡を確認した。塔心礎石の下部からは地鎮・鎮壇具と想定される10世紀前半の遺物が出土し、10世紀前半に塔が建立されたことがわかった。

平成15年度

字中寺全域の詳細分布調査を実施し、遺跡が約1kmの範囲に展開していることを確認した。この範囲を大きく4つの地区に分け、それぞれをA～D地区とした。

平成16年度

中寺廃寺跡調査・整備委員会を組織し、長期計画に基づき本格的な調査を実施した。平成16年度はA地区第2・第3テラスにおいて発掘調査を実施し、仏堂跡・塔跡を確認した。これら仏堂と塔は計画的に配置された中枢伽藍であり、A地区は中寺の中心的な地区であったと考えられる。また、文献調査により、寺は19世紀前半にはすでに名称不明の状態にあり、現在のD地区付近における寺跡の存在が伝承されていたことがわかった。

平成17年度

B地区において発掘調査を実施し、礎石建物跡（仏堂もしくは割拝殿）・僧房跡を確認した。僧房跡より西播磨産須恵器多口瓶片、僧房跡に伴う排水溝より越州窯系青磁碗片が出土したことから、中寺はこれらの貴重品を取り寄せることのできる有力な寺院であったと考えられる。

平成18年度

C地区において発掘調査を実施し、石組遺構を確認した。平安時代に記された仏教行事に関する史料『三宝絵詞』に、平安時代中頃には石を積んで石塔とする行為が一般の民衆に広がっていたという記述があることから、石組遺構は平安時代の石塔であると思われ、祭祀的な意味合いの強い地区であると考えられる。

平成19年度

A地区第4テラスにおいて発掘調査を実施し、大炊屋跡を確認した。大炊屋跡では、築竈跡を検出し、多量の食器・調理具類が出土している。平成18年度までの調査結果から、地方における古代山林寺院の展開の様相を具体的に示し、遺存状況も良好であるとして、平成20年3月28日、

国の史跡に指定された。

平成20年度

B地区第1・第2テラスにおいて発掘調査を実施し、第1テラスでは礎石建物跡に付随する礎石据付掘方跡、溝跡を確認した。第2テラスではテラス中央に南北に走る排水溝を挟み、東西にそれぞれ1棟ずつ配された僧房跡を確認した。流土層より佐波理加盤と考えられる金属器片が出土した。

平成21年度

A地区第12テラス、B地区第2・第3テラスにおいて発掘調査を実施した。平成17年度の調査成果も含めて概観したところ、B地区第3テラスは、テラス中央1棟のみの建物配置であることがわかった。またB地区より8世紀後半、9世紀後半～10世紀前半の遺物が特に多く出土していることから、中寺廃寺の中で最初に営まれた地区であると考えられる。B地区第3テラスより古密教の様相を呈する銅錫杖頭、銅三鈷杵が出土した。

平成22年度

A地区第11テラスにおいて仏堂・塔に関連する遺構を、A－B地区間連絡道において大川神社やC地区との連絡道を、B地区第3テラス西側斜面においてテラスの切岸を確認することを目的とした発掘調査を実施したが、明確な遺構は確認できなかった。

本年度

本年度より開始された史跡内の保存整備事業により、掘削を伴い現状が変更される箇所について事前に調査を実施した。遊歩道敷設箇所、仏ゾーン説明板設置箇所（A地区第3テラス）、柞野・江畑道導入部案内板設置箇所（A地区第12テラス）、道標設置箇所の遺構の確認調査を実施した。調査の結果、明確な遺構は確認できなかった。

3. 周知と活用

中寺廃寺跡の周知と活用を図るため、現地見学、講演会、資料展示を実施した。また、外部団体からの見学・講演依頼に講師を派遣している。琴南ふるさと資料館では常設展示を行っている。町内公共機関にはパンフレットの常設を依頼している。近状としては、柞野道駐車場の整備が完了したことによる登山客の増加が見られる。

活動実績

4月14日	現地見学 長炭婦人会	15名
5月13日	現地見学 造田婦人会	8名
5月26～28日	琴南中学校職場体験学習	3名
8月26日	現地見学 社会教育主事担当者会	11名
11月5・6日	琴南地区文化祭にて琴南ふるさと資料館開放	
11月27日	まんのう町文化祭にて展示	
1月24・25日	満濃中学校職場体験学習	7名

活動の様子



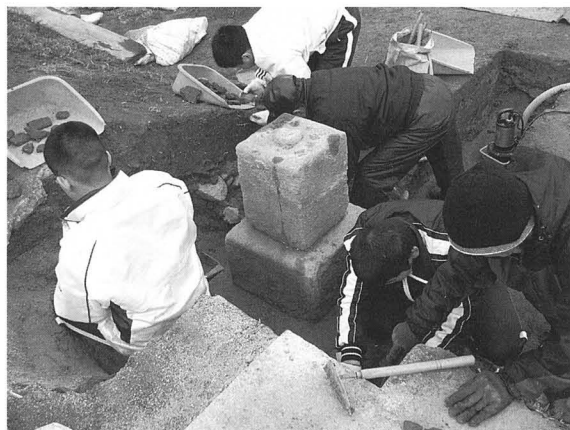
4月14日 現地見学 長炭婦人会



5月13日 現地見学 造田婦人会



5月26～28日 琴南中学校職場体験学習



1月24・25日 満濃中学校職場体験学習

4. 調査の成果

(1) 遺構

本年度の発掘調査は、保存整備事業により掘削を伴い現状が変更される、遊歩道（なか道・きた坂）敷設箇所、仏ゾーン説明板設置箇所（A地区第3テラス）、柞野・江畑道導入部案内板設置箇所（A地区第12テラス）、道標設置箇所の10地点について実施した。

A地区は、史跡中寺廃寺跡の中央部、標高約753m～680mに位置する全12箇所のテラス群で、史跡範囲南東端の三角点から南東側面に分布する。テラスは、尾根の頂上に位置するテラス2箇所を除けば、全てが尾根を背にし、南東側の谷に向かって広がる。主な施設として、第1テラスで菜園場跡、第2テラスで仏堂跡、第3テラスで塔跡、第4テラスで大炊屋跡を確認している。

遊歩道敷設箇所については、A地区とB地区を結ぶ道にあたり、主に敷設箇所上部で平坦に見受けられる箇所が存在する地点において、トレンチ調査を行った。仏ゾーン説明板設置箇所については、A地区第3テラス塔跡の西にあたり、平成16年度の調査で調査済みであったが確認のため再掘削を行った。柞野・江畑道導入部案内板設置箇所については、A地区第12テラス中央東斜面にあたり掘削調査を行った。道標設置箇所については、登山道・遊歩道の分岐点にあたり、設置時に立会にて確認した。いずれの箇所についても遺構は検出されなかった。

①遊歩道（なか道）敷設箇所トレンチ

なか道は現在の作業道北部の雑木林中に、A地区第3テラスと第4テラスの間から塔跡南斜面を通り、B地区第1テラスを結ぶ遊歩道として、現在の作業道と一部重なるが、安全性を考慮して計画された。造成に際しては傾斜地では盛土を行い、極力、現状を変更せずに敷設できる箇所を選定したが、技術的事由等により切土を回避することができない箇所については予めトレンチ調査を行い、遺構の有無を確認した。

トレンチ1～4

A地区第3テラス塔跡の南斜面、標高718.64mから715.12mにかけて傾斜に直交する位置に長さ3m、幅0.5mで設定した。塔跡に近接する南斜面であることから切土は避けたかったが、傾斜角が大きいことから盛土が維持できないため、切土によって幅員を出すこととなった。堆積土層は腐葉土層、腐植土層、流土層から成り、地山と同じ傾斜で堆積している。第3テラス造成の形跡、遺構面は検出されず、遺物も出土しなかった。腐葉土・腐植土層は10～20cm、流土層は主に黄褐色系の砂質土で西に行くほど黄色味が強くなり10～40cm堆積している。地山はトレンチ1～3では明黄褐色粘質土で灰白色の礫を多く含み、トレンチ4では砂岩礫を多量に含む砂質土で礫層に近くなっている。

トレンチ5

遊歩道（なか道）の切土が現在のA－B地区間を結ぶ作業道沿い南東の3㎡程の小平坦地に及

ぶため調査を行った。標高714.56mから713.44mにかけて、傾斜に直交する位置に長さ3m、幅0.5mで設定した。堆積土層は腐葉土層、腐植土層、流土層から成り、地山と同じ傾斜で堆積している。小平坦地の造成の形跡、遺構面は検出されず、遺物も出土しなかった。流土層は軟弱で、一部が変則的に厚く堆積したことにより小平坦地が形成されたと考えられる。

トレンチ6～9

トレンチ5-6間の遊歩道（なか道）敷設箇所については、A地区第6テラスにあたり、傾斜が緩やかで現状を変更する箇所はなかった。トレンチ6～9については、上部で小平坦地として利用された可能性のある緩やかな傾斜地が見受けられる地点について調査を行った。標高710.62mから701.56mにかけて、傾斜に直交する位置に長さ3m、幅0.5mで設定した。堆積土層は腐葉土層、腐植土層、流土層から成り、地山と同じ傾斜で堆積している。平坦地等の造成の形跡、遺構面は検出されず、遺物も出土しなかった。腐葉土・腐植土層は10～20cm、流土層は主に黄褐色系の粗砂質土で15～40cm堆積している。地山は黄色系の粘質土で堅固である。トレンチ8については、地山が強硬質の岩盤であるため雨水により流土層が失われている。

②遊歩道（きた坂）階段敷設箇所

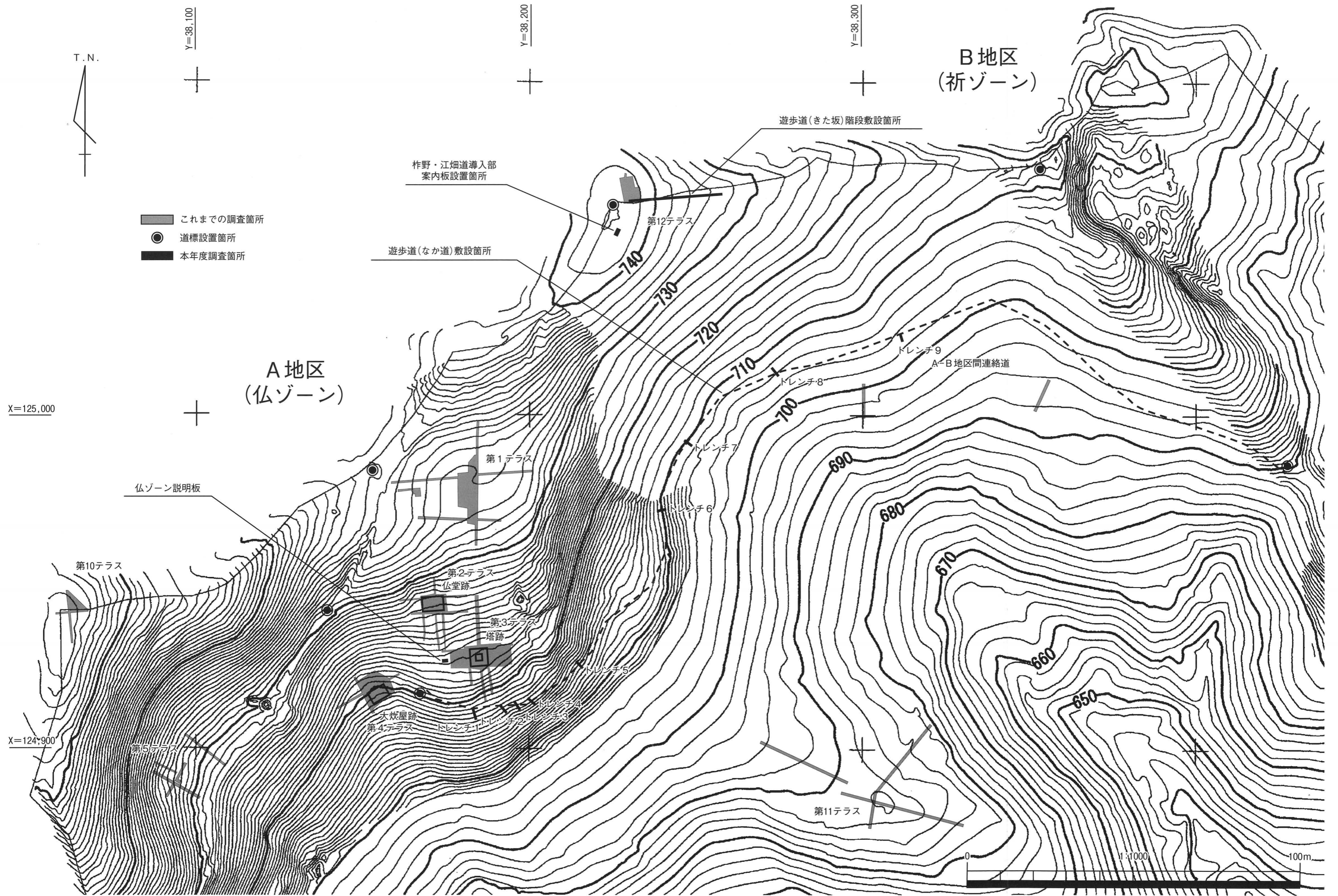
きた坂はA地区第12テラスから、B地区第1テラスを結ぶ遊歩道として計画された。元より登山道が通っているが、テラスの東斜面部分については傾斜が約25度と大きく、悪天候時などには歩行が困難になっていた。そこで階段を敷設することとなり、切土を伴うため予め掘削調査を行った。標高743.31mから735.53mにかけて、長さ20.8m、幅1.0mで設定した。堆積土層は腐葉土層、腐植土層、流土層から成り、地山と同じ傾斜で堆積している。第12テラス造成の形跡、遺構面は検出されず、遺物も出土しなかった。腐葉土・腐植土層は約10cm、流土層は黄褐色粗砂質土で15～30cm堆積している。地山は黄色系粘質土で白色劣化石の礫を含み、谷に向かって礫の量が少しずつ変化している。

③仏ゾーン説明板設置箇所（A地区第3テラス）

仏ゾーン（A地区）を展望しながら解説を参照できる位置として、仏堂跡南辺より南へ14.5m、塔跡西辺より西へ6.5m、標高723.15mの地点に計画された。この位置は平成16年度の第3テラスの調査で全面を遺構面まで掘削されている。説明板の基礎が現地表面から最大で50cm埋め込まれ、遺構面が影響を受けるため再確認調査を行ったが、遺構は検出されなかった。

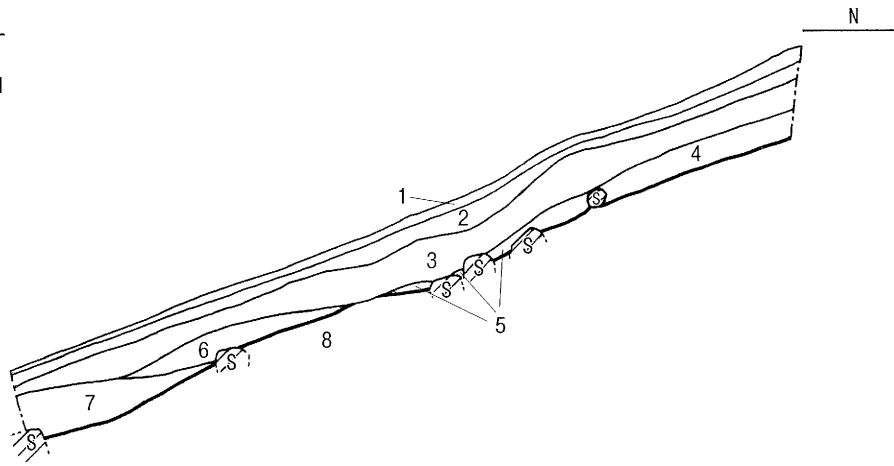
④柞野・江畑道導入部（A地区第12テラス）案内板設置箇所

柞野・江畑道より中寺廃寺跡へ至った場合、最初に立ち入るテラスがA地区第12テラスにあたるため史跡への導入部と位置づけられ、案内板設置が計画された。設置箇所は平坦面より僅かに

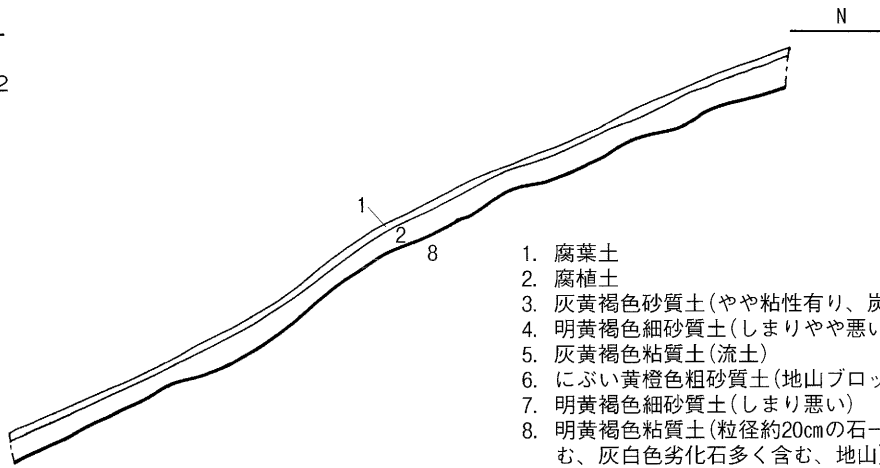


第3図 本年度調査箇所配置図

S
718.7m
トレンチ 1

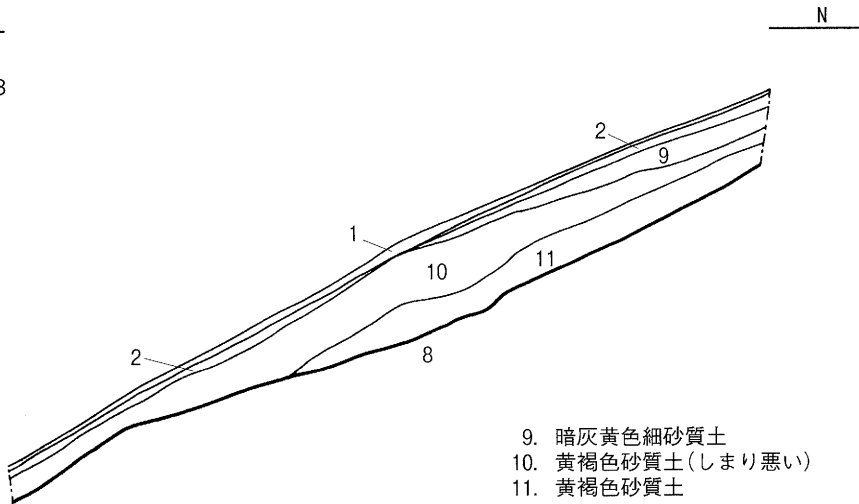


S
717.8m
トレンチ 2

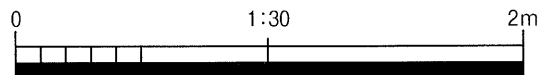


1. 腐葉土
2. 腐植土
3. 灰黄褐色砂質土(やや粘性有り、炭粒少し含む)
4. 明黄褐色細砂質土(しまりやや悪い)
5. 灰黄褐色粘質土(流土)
6. にぶい黄橙色粗砂質土(地山ブロック多く含む)
7. 明黄褐色細砂質土(しまり悪い)
8. 明黄褐色粘質土(粒径約20cmの石一部多く含む、灰白色劣化石多く含む、地山)

S
717.6m
トレンチ 3

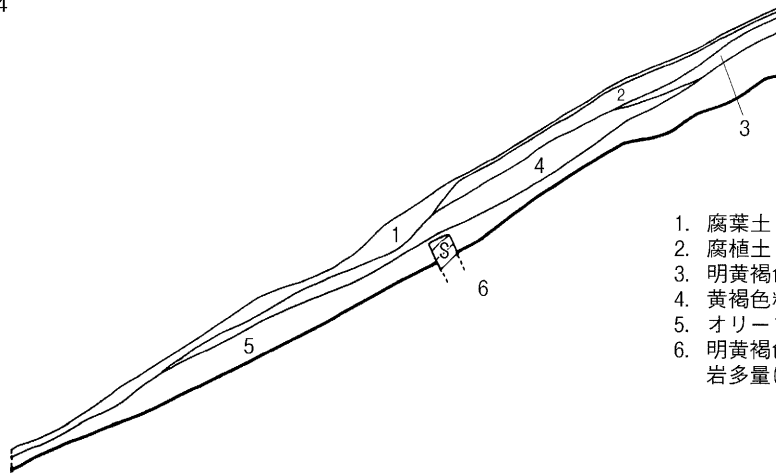


9. 暗灰黄色細砂質土
10. 黄褐色砂質土(しまり悪い)
11. 黄褐色砂質土



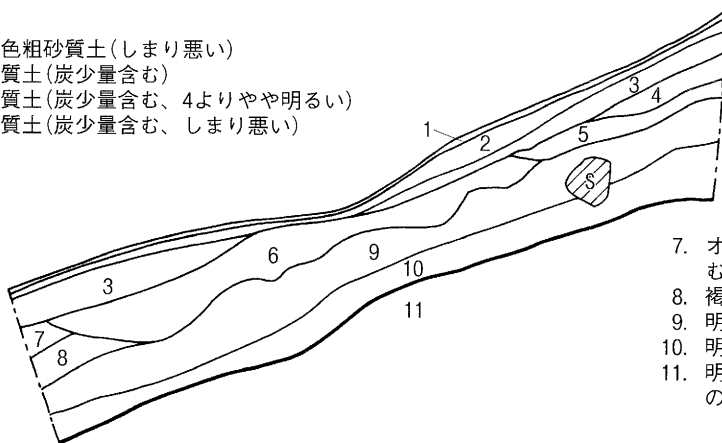
第4図 遊歩道(なか道)敷設箇所トレンチ土層断面図

SE
717.1m
トレンチ4



1. 腐葉土
2. 腐植土
3. 明黄褐色粗砂質土
4. 黄褐色粗砂質土(しまり悪い)
5. オリーブ褐色粗砂質土(しまり悪い)
6. 明黄褐色細砂質土(粒径60cm以下の砂岩多量に含む、地山)

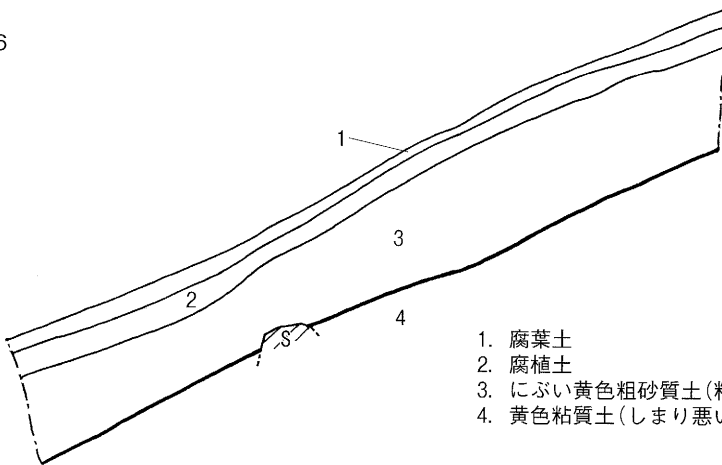
SE
717.5m
トレンチ5



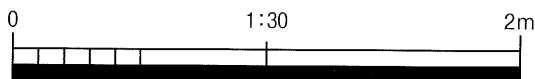
1. 腐葉土
2. 腐植土
3. オリーブ褐色粗砂質土(しまり悪い)
4. 黄褐色粗砂質土(炭少量含む)
5. 黄褐色粗砂質土(炭少量含む、4よりやや明るい)
6. 黄褐色粗砂質土(炭少量含む、しまり悪い)

7. オリーブ褐色粗砂質土(炭少量含む、しまり悪い)
8. 褐色粗砂質土(しまり悪い)
9. 明黄褐色細砂質土(しまり悪い)
10. 明黄褐色細砂質土(しまり悪い)
11. 明黄褐色細砂質土(粒径15cm以下の石含む、地山)

E
710.7m
トレンチ6

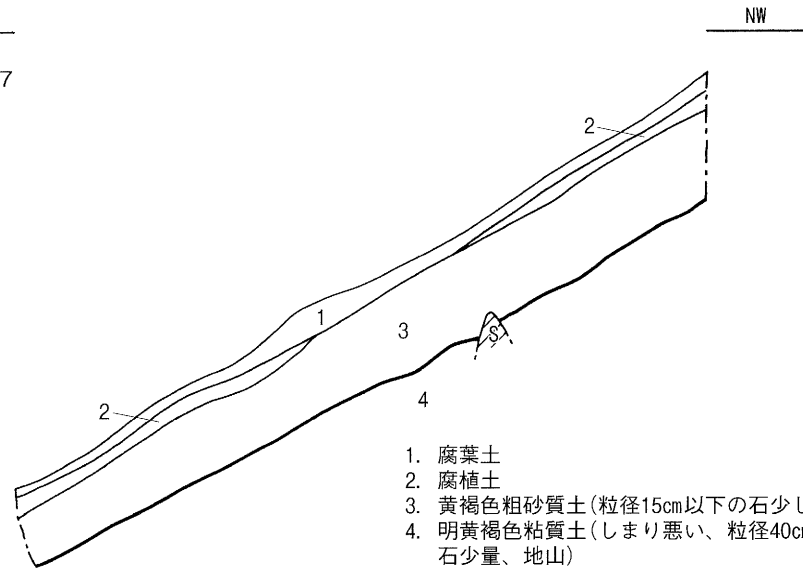


1. 腐葉土
2. 腐植土
3. にぶい黄色粗砂質土(粒径10cm以下の石含む)
4. 黄色粘質土(しまり悪い、地山)



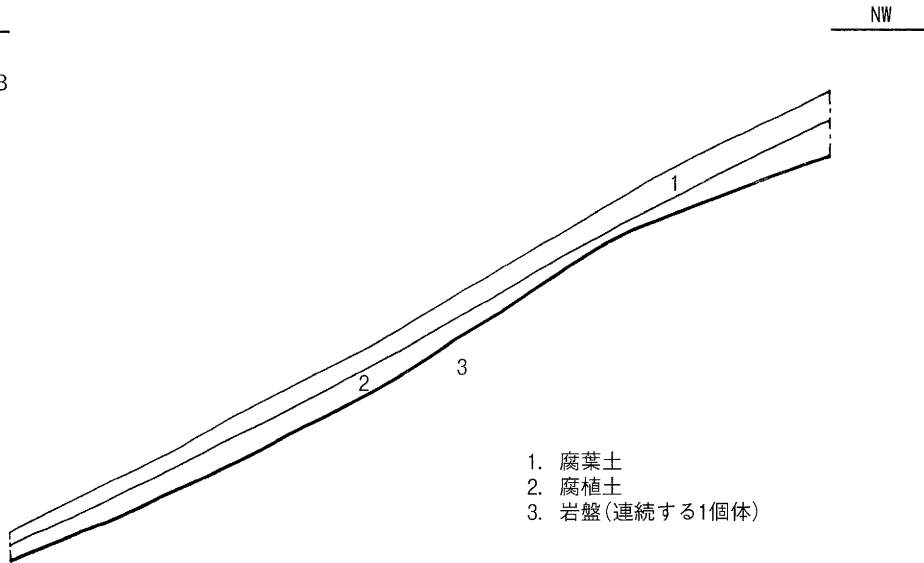
第5図 遊歩道(なか道)敷設箇所トレンチ土層断面図

SE
709.8m
トレンチ7



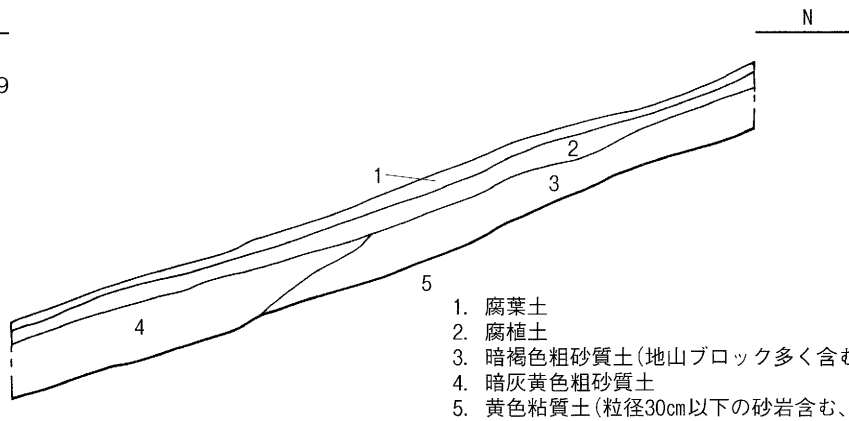
1. 腐葉土
2. 腐植土
3. 黄褐色粗砂質土(粒径15cm以下の石少し含む)
4. 明黄褐色粘質土(しまり悪い、粒径40cm以下の石少量、地山)

SE
707.0m
トレンチ8

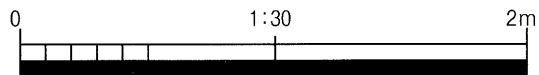


1. 腐葉土
2. 腐植土
3. 岩盤(連続する1個体)

S
702.7m
トレンチ9

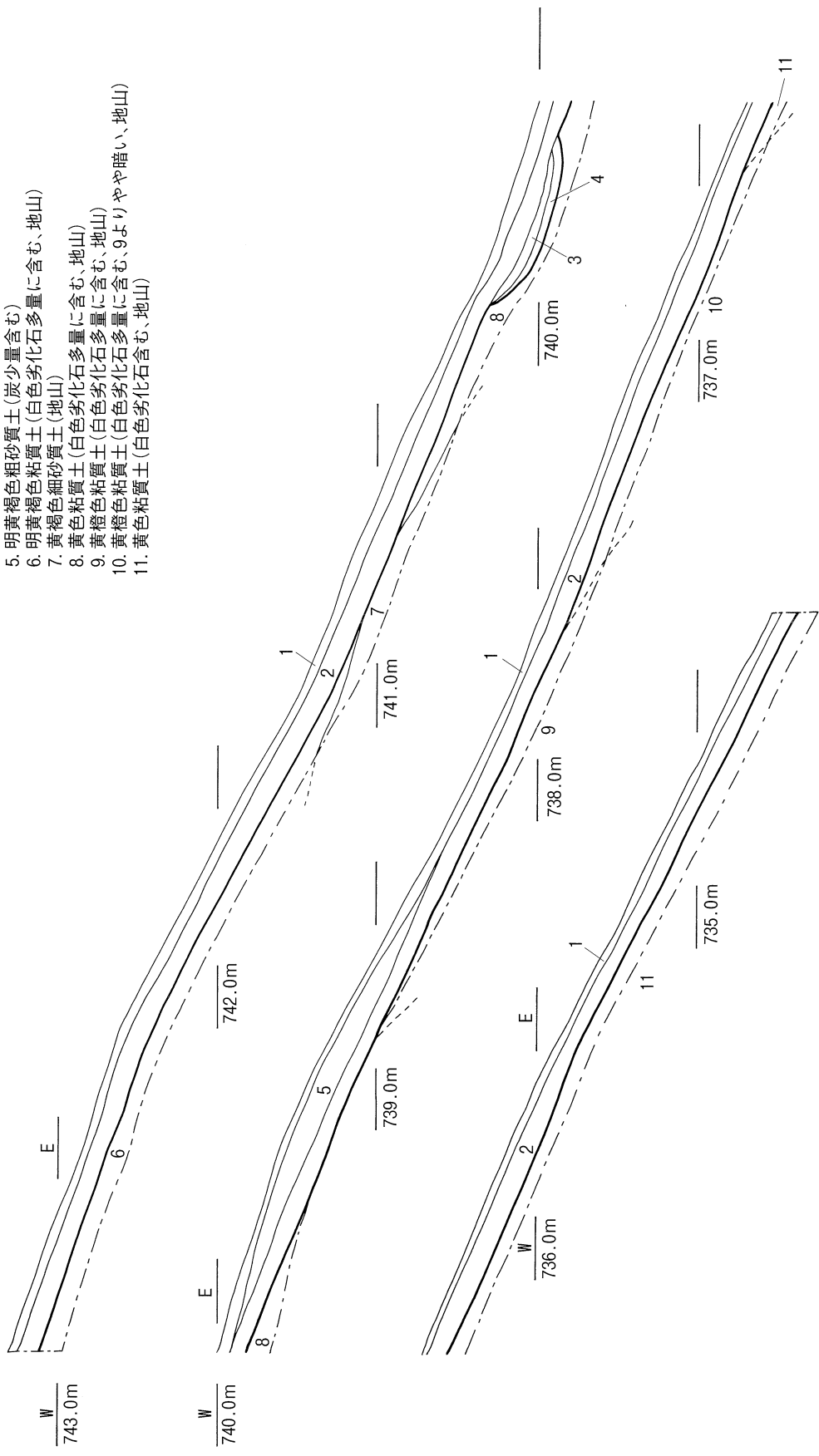


1. 腐葉土
2. 腐植土
3. 暗褐色粗砂質土(地山ブロック多く含む)
4. 暗灰黄色粗砂質土
5. 黄色粘質土(粒径30cm以下の砂岩含む、地山)



第6図 遊歩道(なか道)敷設箇所トレンチ土層断面図

1. 腐葉土・腐植土
2. 黄褐色粗砂質土
3. 黒色粗砂質土 (炭多量に含む)
4. 橙色粘質土
5. 明黄褐色粗砂質土 (炭少量含む)
6. 明黄褐色粘質土 (白色劣化石多量に含む、地山)
7. 黄褐色細砂質土 (地山)
8. 黄色粘質土 (白色劣化石多量に含む、地山)
9. 黄橙色粘質土 (白色劣化石多量に含む、地山)
10. 黄橙色粘質土 (白色劣化石多量に含む、9よりやや暗い、地山)
11. 黄色粘質土 (白色劣化石含む、地山)

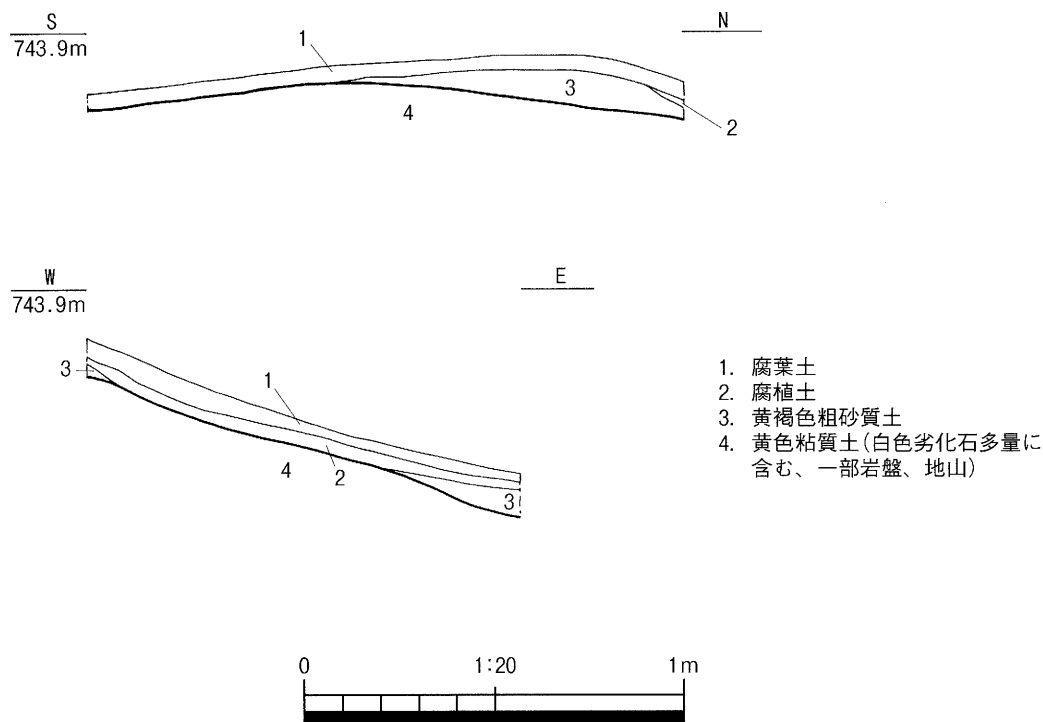


第7図 遊歩道 (きた坂) 階段敷設箇所 土層断面図

南東斜面へ下った位置にあたり、大川山を正面に臨むことができる。案内板の基礎が現地表面から最大で50cm埋め込まれ、遺構面が影響を受けるため掘削調査を行った。標高743.84mから743.29mにかけて、縦1.55m、横1.14mで設定した。小尾根の頂上であることから、極薄く腐葉土層、腐植土層しか堆積しておらず、一部に10cm程度の黄褐色粗砂質土の流土層が確認された。地山と同じ傾斜で堆積している。テラス造成の形跡、遺構面は検出されず、遺物も出土しなかった。地山は白色劣化石の礫を多く含んだ黄色粘質土で、史跡内の他の地区でもよく見られる層位である。

⑤道標設置箇所

登山道・遊歩道の分岐点にあたる6箇所について道標設置が計画された。案内板の基礎が現地表面から50cm埋め込まれるため、所によっては地山を掘り込むことから設置時に立会にて遺構の確認を行った。縦50cm、横50cm、深さ50cmの範囲を掘削し、いずれの箇所でも腐葉土層、腐植土層、黄褐色粗砂質土の流土層、白色劣化石の礫を多く含んだ黄色粘質土の地山が確認された。テラス・道等の造成の形跡、遺構面は検出されず、遺物も出土しなかった。

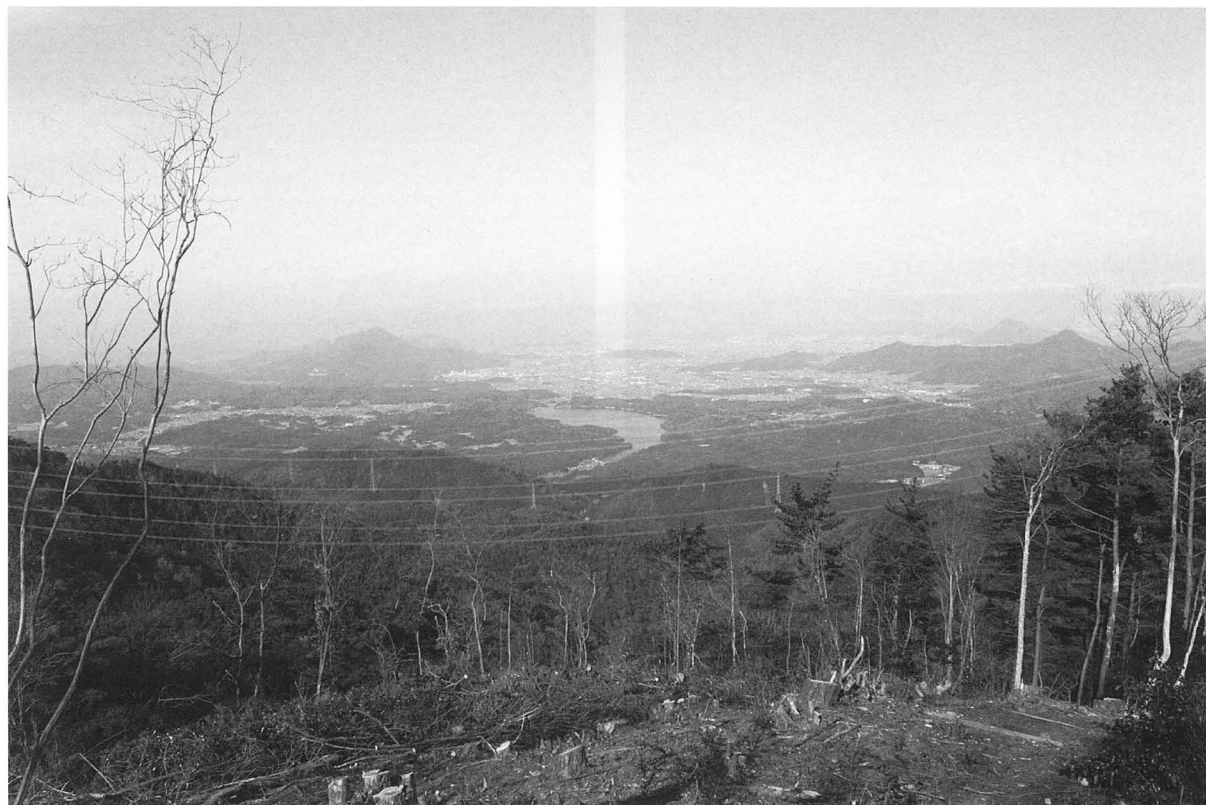


第8図 柞野・江畑道導入部（A地区第12テラス）案内板設置箇所 土層断面図

(2) まとめ

本年度の調査はすべて、保存整備事業によって掘削を伴い現状が変更される箇所についての事前の確認調査であった。中寺廃寺跡の保存整備事業は、仏堂跡の保護盛土施工など遺構が確認された範囲のみの保存整備に留まらず、遺構と遺構を結ぶ道や道標の設置などにもおよび、そのすべてが史跡の範囲内であることから、基本計画策定時より実施設計に至るまで施工箇所の選定については検討を重ねてきた。本年度、調査を行った箇所についてはいずれも明確な遺構は確認できなかったことから、設計通りに施工することが可能となった。史跡の本質的価値を護りつつ、基本計画に定められた理念である「積極的な活用」を目指し、バランスの良い検討がなされた結果が保存整備事業の実施へと結びついた。

次年度に計画されているB地区の保存整備事業は、より困難なものになると予想されるが、基本計画の理念が反映された整備となるよう施工方法等さらなる検討を重ねなければならない。



柞野・江畑道導入部（A地区第12テラス）からの遠景 北西方面



柞野・江畑道導入部（A地区第12テラス）からの遠景 南東方面

図版3



遊歩道（なか道）敷設箇所
トレンチ1 掘削前状況 北から



遊歩道（きた坂）階段敷設箇所
掘削前状況 西から



仏ゾーン（A地区）説明板設置箇所
掘削前状況 東から



柞野・江畑道導入部（A地区第12テラス）案内板設置箇所
掘削前状況 北から



遊歩道（なか道）敷設箇所 トレンチ1 西壁土層断面 北東から



遊歩道（なか道）敷設箇所 トレンチ2 西壁土層断面 北東から



遊歩道（なか道）敷設箇所 トレンチ3 西壁土層断面 南東から

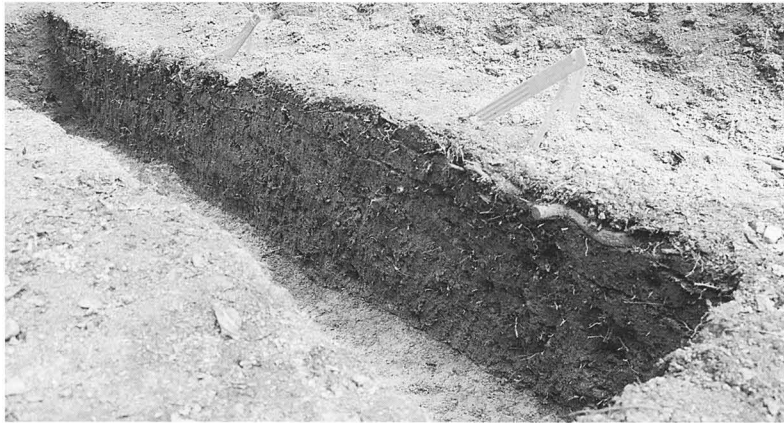


遊歩道（なか道）敷設箇所 トレンチ4 西壁土層断面 南東から

図版5



遊歩道（なか道）敷設箇所 トレンチ5 西壁土層断面 南東から



遊歩道（なか道）敷設箇所 トレンチ6 南壁土層断面 北東から



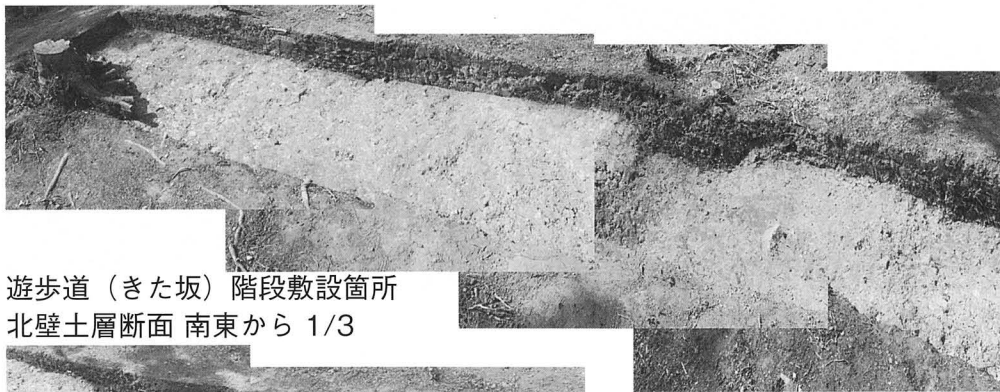
遊歩道（なか道）敷設箇所 トレンチ7 南西壁土層断面 北から



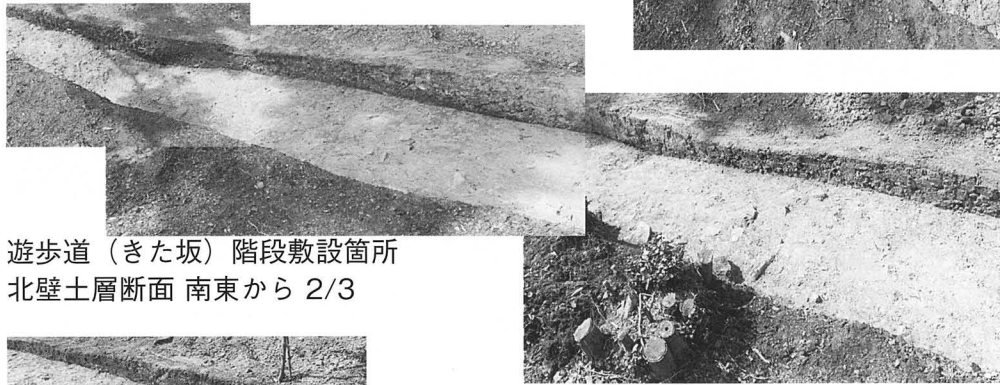
遊歩道（なか道）敷設箇所 トレンチ8 南西壁土層断面 東から



遊歩道（なか道）敷設箇所 トレンチ9 西壁土層断面 北東から



遊歩道（きた坂）階段敷設箇所
北壁土層断面 南東から 1/3



遊歩道（きた坂）階段敷設箇所
北壁土層断面 南東から 2/3

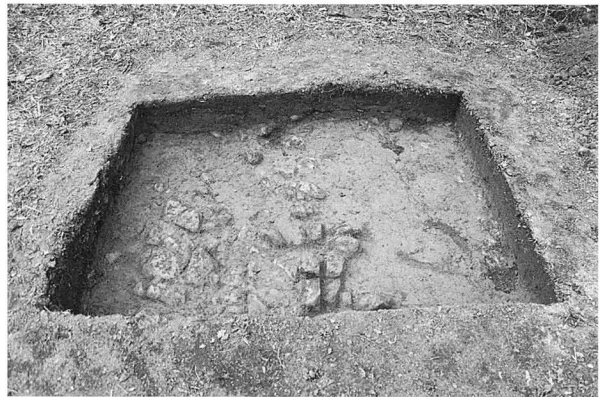


遊歩道（きた坂）階段敷設箇所
北壁土層断面 南東から 3/3

図版7



仏ゾーン説明板設置箇所（A地区第3テラス）
完掘状況 南から



仏ゾーン説明板設置箇所（A地区第3テラス）
完掘状況 北から



柞野・江畑道導入部案内板設置箇所
（A地区第12テラス）完掘状況 東から



柞野・江畑道導入部案内板設置箇所
（A地区第12テラス）完掘状況 北から



柞野・江畑道導入部案内板設置箇所（A地区第12テラス）西壁土層断面 東から



柞野・江畑道導入部案内板設置箇所（A地区第12テラス）南壁土層断面 北から

報告書抄録

ふりがな	なかでらはいじあと へいせい23ねんど						
書名	中寺廃寺跡 平成23年度						
副書名							
巻次	2012年3月						
シリーズ名	まんのう町内遺跡発掘調査報告書						
シリーズ番号	第9集						
編著者名	中村 文枝						
編集機関	まんのう町教育委員会 社会教育課 中寺廃寺発掘調査室						
所在地	〒766-0202 香川県仲多度郡まんのう町中通875番地 琴南公民館内 TEL (0877) 85-2221 FAX (0877) 85-2826						
発行機関	まんのう町教育委員会						
発行年月日	2012年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積
		市町村	遺跡番号				
なかでらはいじあと 中寺廃寺跡	かがわけんなかたどぐん 香川県仲多度郡 まんのう町造田 3469-2	374067		34度 7分 19秒	133度 55分 3秒	平23.4.25 ～ 平23.11.21	28.5㎡
調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
確認調査	山林寺院	奈良 ～ 平安			山岳仏教草創期の山林寺院における発掘調査		
概 要							
<p>国指定史跡中寺廃寺跡（平成20年3月28日指定）は、香川県仲多度郡まんのう町造田にある大川山（標高1042.9m）の西尾根、標高700m付近に位置する18.8ヘクタールの古代山林寺院跡である。平成20年度までに、A地区では菜園場跡・仏堂跡・塔跡・大炊屋跡、B地区では仏堂もしくは割拝殿であった礎石建物跡・僧房跡、C地区では石組遺構を確認している。A地区は仏堂と塔が計画的に配置された中枢伽藍が存在する中心的な地区、B地区は中寺において最も早い時期より大川山信仰に根ざす活動が始まった地区、C地区は平安時代における民間信仰の痕跡が残る地区と考えられる。本年度は史跡内の保存整備事業により、掘削を伴い現状が変更される箇所について事前に調査を実施した。遊歩道敷設箇所、仏ゾーン説明板設置箇所（A地区第3テラス）、柞野・江畑道導入部案内板設置箇所（A地区第12テラス）、道標設置箇所の遺構の確認調査を実施したが、明確な遺構は確認できなかった。</p>							

まんのう町内遺跡発掘調査報告書 第9集

中 寺 廃 寺 跡
平成23年度

平成24年3月31日 発行

編集・発行 まんのう町教育委員会 中寺廃寺発掘調査室

〒766-0202

香川県仲多度郡まんのう町中通875番地 琴南公民館内

電話 (0877)85-2221

印 刷 株式会社 美巧社

